

五輪塔資料の研究・仏教経軌編

齋藤彦松

一、序 本研究は、日本国土の至る所に其の特殊な形容を展開し日本的仏教風土を形成し、現在更に盛行をみている五輪塔の基礎資料グループの一つに仏教経軌類が在る。其の中の五輪塔主要資料を摘出し、その内容と形式を整理し両者の接点を解明し、次の展開期への基礎要因を研究せんとするものである。

二、五輪塔資料の中の仏教経軌の位置 五輪塔史はその資料集団を大要 ①バラモン教典 ②仏教経軌 ③日本仏書図像類 ④信仰遺物の四種に区分される。①のバラモン教典資料は主に奥義書Upanishadにみられるもので、五輪塔の成立要因である内容（地水火風空の五大）と形式（方円三角半月等）が既に別個に成起し進転して来る。その両因を受容した仏教では早くも阿含經典にそれを見る。更に密経軌に到ると、内容と形式の両者が結合し五大（輪）塔婆が成立し、五輪塔なる名称も記録され、又舍利容器としての五輪塔が製作されたであらう事を推定せしめる資料もみられる。是等仏教経軌資料

は、五輪塔成立期の重要資料を含み、更に五輪塔日本展開への基礎要因となる。

三、顕教經典の五輪資料 仏教成立後、密教が盛行する迄の經典にも五輪塔成立要因の資料をみる。内容要因はウパニシャッド以来の五大思想で、二世紀に漢訳された「四諦経」^{Upanishad}や阿含經典に六大六界の内の五大要素として地水火風空をみる。是等を万有要素即ち物質構成要素としてとらえ、更に相互關係に及び更に人身要素として之をみ、又五大の夫々を天神（長阿含經^{Upanishad}）としている事は誠に注意を要する。形式要因は主として阿含系の諸經典に見られる仏教世界觀の四洲である北洲方、東洲円、西洲半月、南洲三角でその形が方円三角半月の四形である。是等バラモン教祭火炉クンダkundaの形を受容せるものとされる。又華嚴經（八十）華藏世界品^{Upanishad}の中に多くの世界の形が表現されている中に五形をみる。中でも「蓮華形」及「摩尼宝形」は注意を要する。

四、密教経軌の五輪塔資料 仏教には早くよりバラモン教

の思想と形式が混入して居り、密教色が強くなるに従つて増幅して来る。密教の護摩炉はバラモン教の祭火炉方、円、三角、半月、六角等の形式をそのまま受容してその基本としている。この炉形が五輪塔の形式要因で、内容の地水火風空はバラモン教の五大思想で、器世間(物質界)の分類内容として記録し人体要素を含み、初期仏教にも受容された事は前記した。大日経では五大、五形、五字(梵字 a vani rani hanī karā-sinīha — 735 は多くの密経軌、特に五輪塔の主要経軌を訳した。中でも破地獄三種悉地法軌^{大正19、p.393}、尊勝仏頂脩瑜伽法軌儀^{大正19、p.393}、慈氏菩薩略修瑜伽念誦法^{大正19、p.393}に五輪及び五輪塔が图示され、五大、五形、五字を始め他の内容が一括され、内容と形式の結合を明示している事は誠に重要である。また宝悉地成仏陀羅尼經(不空訳)^{大正19、p.393}には「五輪塔」なる名称を記録し、舍利容器としての五輪塔の存在を推定せしめる句を含む。又錫杖図中に五輪塔形を明示している經典^{大正19、p.113}もある。是等の事から密教経軌には、五輪塔図の成立、立体五輪塔の成立した事を含んでいる事になり、五輪塔史上最も重要な時点となる。

五、五輪塔の成立 どの様な物を五輪塔と言ふのか。此の

定義を明確に表現しているのが善無畏訳の仏頂尊勝心破地獄儀軌^{大正19、p.102}で「鑲字變成率都婆。方円三角半月团形。地水火風空五大所成故。此率都婆成摩訶毘盧遮那如来。」の句で是を説明的に図式化すると

率都婆 { 方円三角半月团形 (五形) } 大日如来
地 水 火 風 空 (五大)

となり五輪塔とは率都婆 Stupa で形は下より方円三角半月団の順に積上げ、下より地水火風空とし、総じて大日如来を内容とする。

五輪塔の成立は経軌等の記録と現物塔の製作との何れが先行したかは確定し得ないが、前記した不空訳「宝悉地成仏陀羅尼經」には「設利可如是持。亦可安置五輪塔中。亦可安置多宝塔中。亦可安置三股塔中。亦可安置五股塔中。亦可安置独股塔中。」と記している。設利 Carian 是は舍利とも記し身骨の意である。「仏舍利を是の如く持すべし。亦五輪塔の中に安置す可し。亦多宝塔の中に安置す可し等」とし五輪塔が既に多宝塔と共に存在していた事が推定される。又日本に現存する舍利容器となつている独鈷杆等から、舍利を内蔵する故に独股塔等の名称が唐代に存したものと推定される。近年右の句を「五輪を塔中に安置すべし。多宝を塔中に安置すべし等」と誤読している著書を見るが、舍利を是の如く持す可し、の答えにもならず、又五輪や多宝、三股等が舎利の代品とな

つた例も記述もない。ここで重要なのは、密経軌期に率都婆、五輪塔なる名称と共に既に信迎対象としての現物塔が存在した事即ち、五輪塔の成立を側面から記録している事である。

六、空輪の形式 方円三角半月の四輪の形には問題はないが、その上の空輪の形式表現が一定して居らない。是を経軌の初出順に列記すると①空点 ②宝珠形 ③満月 ④団形

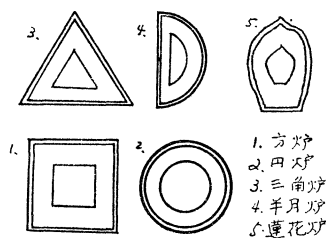
⑤大空点 ⑥円等となる。①⑤の空点なる語は、悉曇文字中の空点と推定される。空点は正しく書く際は、宝珠形となる如く伝承されている。すると宝珠形①②⑤と球形③④⑥となる。日本に現存する無数に近い多くの五輪塔の大部分は宝珠形で、残る僅かのものが球形（重源五輪塔等）である。方円三角半月の四形が何れも護摩炉形と一致する事から、宝珠形は、同炉中の蓮花炉（八葉形及一葉形とが在る）中の一葉形（宝珠形）と推定される。現存最古と推定される醍醐寺の鈴上五輪塔第3圖が蓮雷形となつてゐる事は重要である。

七、五輪及五輪塔観 バラモン教では五大を器世間（物質界）とし、仏教でもこの考え方が基礎となつてゐる。之が更に極微論に發展するが、仏教初期の雜阿含經には、彼一切は四大より造られるの意がみられ、密教に入りては、五輪一切処に遍満の思想も記録されている。五輪物質観は、当然五輪人身觀へと進転し「五輪成仏身、法身」となつて行く。五輪塔の成立は、五輪塔觀＝六日四米 なる五輪塔觀を形成し、

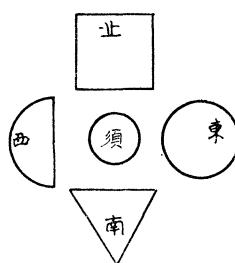
そのまゝ日本五輪塔の主要となつて行く。

八、結 是等仏教経軌資料は、その主要をバラモン教より受け、更に日本国五輪塔展開への基礎となつてゐる。尚図形、梵字、資料の所在等に関しては發表プリントs. p. No. 53三紙を参照されたい。

了。（梵字資料研究所所長）

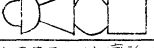
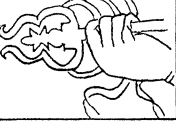


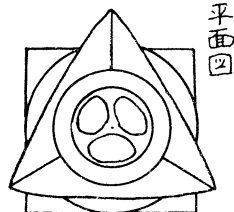
第1圖 護摩炉五形



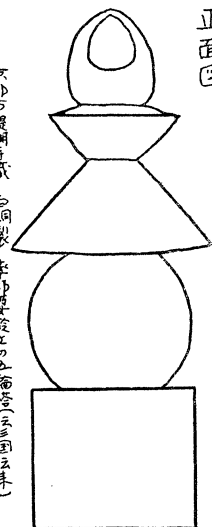
第2圖 四洲(仏教世界觀)の形

第一表 五輪塔資料重要事項初出表

No.	記出 A.D.	見出	初出事項	記者	所載経軌
1	148 ~170	五火	(六丈中) 地水火風空	後漢 安世高	仏説四轉経
2	290 ~306	四形	(四洲) 正方・正円・半月・ 北広南狭(西南)	西晋 法立并 法雄	大樓炭経
3	400頃	四大神	地神水神・火神風神	後秦 鸠摩罗 共竺法	長阿含経
4	484 ~499	五形	(諸形中) 四方 厨内 三角 半月 厚底宝形 蓮華形	宋 义熙	華嚴経(八持)
5	637 ~735	五形	方・円・三角・半月・空矣	善无畏 一行	大日経
6	"	(五火 五形 五字)	地水火風空 方内三角半月空矣 阿婆囉訶法	"	"
7	"	(五火 五字)	地水火風空 阿婆囉訶法	"	"
8	"	五輪端	(手印五指) 地輪 火輪 水輪 風輪 空輪	"	"
9	"	法壇 四形	円・方・三角・蓮華・寶	"	"
10	"	五輪端	(五体及地) 五輪及地	"	"
11	"	五輪図 五火 五字	 善无畏 三種悉地儀軌	"	"
12	"	五輪塔 図	 善无畏 三種悉地儀軌	"	"
13	"	五輪塔	有地輪。地輪上有水輪。 水輪上有火輪。火輪上有風輪。 風輪上有空輪。	"	仙傳集勝心破 地微儀軌
14	"	五輪塔 即大日	摩訶薩(方可)即大日 {地水火風空}	"	"
15	"	五輪塔 即化身	五輪字成化身	"	仙傳集勝心破 地微儀軌
16	"	五輪塔 即化身	五輪字成化身	"	仙傳集勝心破 地微儀軌
17	"	五輪塔		"	"
18	"	五輪塔	其法茶羅火輪五輪形。方 内三角半月三角	"	悉成菩薩略略輪 伽藍誦法
19	705 ~770	五輪塔	(舍利) 安置五輪塔中	不空	金剛地成仏陀 羅尼経
20	"	五輪塔		"	4年4眼觀世音 菩薩大悲心陀 羅尼



平面図



正面図

京都市醍醐寺藏 白銅製 率都婆發工の五輪塔(後醍醐天皇)

第3図(推定)
現存最古の五輪塔